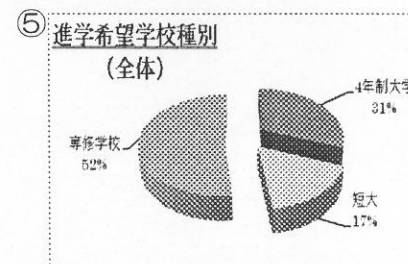
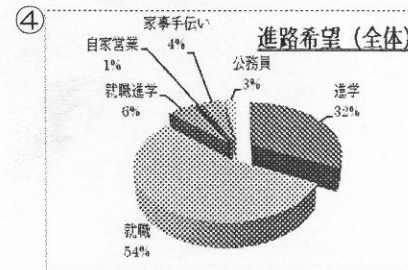
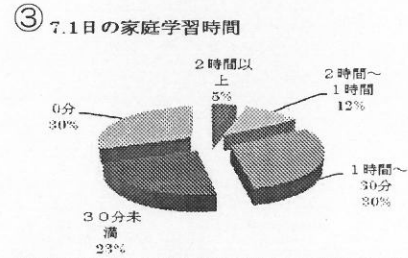
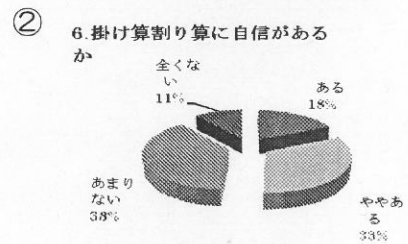
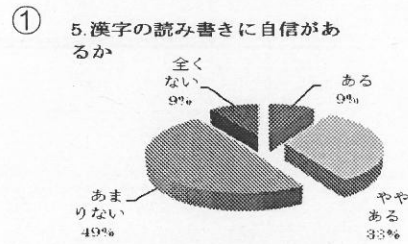


進路だより

いわき翠の杜高等学校 進路指導部

平成27年 6月号

4月13日に全校生を対象に、生活基礎調査及び進路希望調査を実施しました。結果について一部報告します（生活基礎調査：回答数164名 回答率81.6%、進路希望調査：回答数158名 回答率78.61%）。



生活基礎調査から

1.「漢字の読み書きに自信があるか」(グラフ①)について、「全くない」「あまりない」を合わせ58%の生徒が、また、「掛け算割り算に自信があるか」(グラフ②)については、「全くない」「あまりない」を合わせると49%の生徒が自信を持っていない状況にあります。進学希望者はもちろんのこと、就職希望者も筆記試験や面接試験を中心とした就職試験があり、一般常識(基礎学力)が要求されます。昼休みの時間などを有効に使い、基礎基本の学習と定着を心掛けてください。

2.「1日の家庭の学習時間」(グラフ③)については、「0分」「30分未満」を合わせると50%を超え、半数の生徒はほとんど家庭学習をしていないという状況です。この割合は、進路決定を控えている3・4年次生も同じです。卒業年次生は、自分の進路目標の実現のためにも家庭学習の時間を確保し、習慣化してほしいと思います。進路主催の「進路対策講座」を活用していますか？

進路希望調査から

1. 希望する進路(グラフ④)は、進学希望32%就職希望54%でした。就職希望者の希望職種を見ると、「販売・サービス」部門が全体の3割を超え最も多く、続いて「建設・技能」が2割となっています。「未定」の生徒も3割います。勤務地の地元希望は5割弱でした。

2. 進学希望者の「学校種別」(グラフ⑤)は、4年制大学31%、短期大学17%、専修(専門)学校52%という結果でした。

1・2年次生は進路はまだ先と考えている生徒が多いと思いますが、2年次生は1年後、1年次生1年半後に進路決定となります。進路目標を実現するためには、早く目標を決め準備をすることです。目標が決まれば、何をすべきかしなければならぬかが見えてきます。

【譽田先生からの報告】～企業訪問などを実施して～



ほんだ ひでたか
【譽田秀隆先生】

【譽田先生の紹介】今年の4月から「就職支援教員」として赴任し、皆さんの就職活動をサポートします。昨年は保健体育の教師として主に夜間主の生徒を1か月指導しました。先生は長い間、野球部の監督として高校野球を指導し、本県高校野球の発展に貢献してきました。現在もクラブチームに所属し、外野手兼投手としてプレー中です。進路で悩んでいるあなた、進路室を訪ね相談してみてもいいかが？

本校に勤務し、2か月が過ぎました。現在、就職支援教員として皆さんの進路実現を手助けするため、企業訪問や面談等を行っています。

4月から、卒業生が勤務する企業50社余りを訪問しました。採用担当の方から、卒業生が大変良く働いているので、ぜひ今年もいわき翠の杜高校から採用したいとの嬉しいお話をいただきました。一方、1か月も働かず退社した先輩もあり、大変残念な思いをしました。退社の理由は、「仕事が合わない」、「運転免許が取得できない」などがあげられています。企業が求める生徒は、元気に挨拶ができ(コミュニケーション能力)、簡単に辞めない(継続性)、素直な生徒を求めています。決して難しいことはありません。普段の生活で、常に意識して行動することを期待しています。

また、5月に就職希望者37名と面談を行いました。接客が苦手で製造業や裏方の仕事を希望する生徒が多く、まだ職種が絞りきれず、漠然と就職を選んでいると感じました。

7月1日から求人票の受付が開始され、9月16日に就職試験が解禁となります。早期に職業を選択し、試験に備える必要があります。試験は、面接・適性検査・一般常識・作文などから行われます。進路主催の進学対策講座を活用するなど、できるだけ早い準備を心掛けて下さい。

これまでの教員生活で出会った多くの生徒が、自分の進路に悩みながらも、夢を追いかけ、その実現に努力を惜しみませんでした。最後にその一部を紹介します。

■ 高校を卒業して12年目のAさん。短大に進学後、大学に編入し卒業した。大学編入の際、短大の単位が認められず、3年次に80単位余りを取得するなど大変苦労した。彼女の夢は保育士であったが、銀行に就職した。その後、彼女は通信教育で保育士の資格を取得し、高校卒業から12年目に念願の保育士として夢を叶えた。

皆さんには、職業を選択する際、将来の生き方を考えながら、安易に妥協することなく志を高く持って、今何をすべきかを考え、夢の実現に向けて地道な努力をすることを期待しています。

ぜひ、職業の選択などで悩んでいる人は、気軽に進路室を訪ねてください。